

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2012年5月28日

No.22

会社：輸送障害など外的要因で計画未達の状況である。
組合：計画未達は経営責任！責任転嫁は許さない！

～夏季手当第2回交渉～

中央本部は、本日13時より第2回夏季手当交渉を行ない、会社から収入動向について説明を受けました。主な内容は以下の通りです。

【鉄道事業部門】

- ① 4月の輸送状況は、爆弾低気圧や江差線の脱線事故等の予期せぬ事態により225本の運休や、石油価格の高騰による輸送量減等で収入は対計画 94.5%。5月もギリシャ問題再燃により、世界的に景気が冷え込んだことで荷動きが急速に悪化し、昨日段階で79.1%の計画達成率である。
- ②減送の大きな要因は農産品、化学薬品、食料品であり、自動車部品と紙パルプは好調である。
- ③積合せ貨物の荷主から「鉄道輸送を使うにも、輸送障害で時間が読めない！」と指摘を受けている。社内で関係部署へ要請し、対策を打っていく。

【関連事業部門】

- ① 23年度は東日本大震災の減収を新規開発や賃料維持の努力により計画達成したが、24年度はFプラザの賃料の減により厳しい状況であるが、マンション開発など確実に進めることで計画達成に向けて努力していく。

【組合の主張】

- ①安定輸送に対して荷主から厳しい指摘を受けているが、社内で悠長に議論している場合ではない。経営陣の危機感が薄いことの表れである。異常時で奮闘している組合員の労苦に答えていない。
- ②1ヶ月で計画未達となったが、どの様に収入確保を図るのか。誰が責任をとるのか。
- ③ガレキ輸送も、安全確保を前提に、鉄道貨物輸送の社会的責任を果たすべく、責任を持って輸送を担うこと。
- ④無責任な経営陣に組合員の生活や鉄道貨物輸送の将来は託せない。働く者の立場で見直しを図る。

【本社の回答】

- ①雪害については旅客会社と列車整理の調査・検証するための合同会議を行なう。
- ②本社及び各支社のターゲット荷主に対して「A・B・C」と分けし、既存荷主に荷物を多く出してもらうことと、荷物の数量の落ち込みを防ぐためにあらゆる手段を講じる。
- ③ガレキ輸送は環境省の要請に基づき輸送を担っており、要請には100%応えていく。

最後に中央本部は、収入拡大が会社の使命であり、全社を挙げて取り組むべきことなのに、会社からその意気込みが感じられない。減収の経営責任を組合員に押し付けることは断じて許さない！23年度黒字の還元はしっかり果たし、職場の士気を高めるべきであることを通告し、交渉を終了しました。

以上

次回、第3回夏季手当交渉は、6月1日です。